



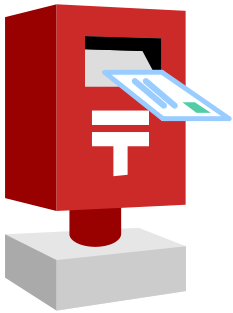
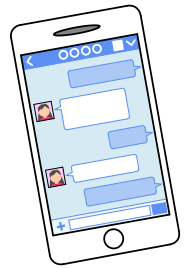
ホームページやSNSの投稿を読んで、そこに書かれていることの意味の取り方で悩んだことはありませんか？

手紙を書いて表現力を高めよう

個人が自由に作成できるホームページやブログなどを読んでみると、複数の解釈ができたり主語が不明確で書き手が本当に言いたいことは何かと悩むことがあります。

出版社から発行される本などは、読み手が書き手の伝えたいことを誤解しないように何度も校正されています。そのため、書き手の思いがすっと伝わってきます。

私たちも SNS の普及で自分の思いを誰かに発信する機会が増えました。そのやりとりの中で自分の思いが正しく相手に伝わらなかったことはありませんか。私も時々伝えた内容について確認されることがあります。これはとても大切なことで、この食い違いで仕事の手戻りを発生させたり人間関係を悪化させてしまうことがあります。言葉で会話をすれば口調やイントネーションで伝わる感情が、文字では読み手の読み方に委ねられます。こちらの感情を読み取ってもらえる表現を心がけているつもりでも、必ずしも正しく伝わるとは限りません。この米工 MAKERS も書いては何度も読み返し、真意が伝わるように努めています。



明日は「ふみの日」です。旧郵政省が1979年に毎月23日を「ふみの日」と制定しました。郵便物の利用促進を目的としながら「手紙の楽しさ、手紙を受け取るうれしさを通じて文字文化を継承する一助となるように」という願いが込められていました。

手紙を書くときは、“この表現で自分の思いが正しく伝わるだろうか”と考えながら書きます。考えなければならない分だけ書きづらさを感じることもあります。私にはお世話になった方へ礼状を書こうと思ってもなかなか筆が進まなかった経験があります。しかし、あるとき思っていることを話し言葉でとりあえず書いてみようと考えました。そうすると抵抗感なくさっと書くことができました。一度書いた後に読み直して失礼のない程度に修正して完成です。その後は手紙を書くことをそれほど苦に思わなくなりました。

みなさんは、電子メールやLINEなどで毎日のように誰かにメッセージを送っていますよね。その分だけ自分の思いを正しく相手に伝えることができるかどうかを試す機会がたくさんあります。少し意識して、“この文面で正しく理解してくれるかな”と見直しながら送ってみましょう。

自分の思いを正しく伝え、人間関係を円滑にすることは毎日楽しく過ごす重要なポイントですね。

